

## 武漢 日本直航便開通 4時間で日本到着

乗り換える必要がなく、わずか4時間で日本に到着できる。武漢市は再び国際直航便の夢を燃やし始めている。来月末、中国国際航空公司湖北支社は武漢 日本への直航便を開通する。年内に、フランス、シンガポールへの直航便も開通する見込みであるため、武漢 ソウルの航空コースに加えて、国際定期直航便は4本になる。

武漢市は大分市をはじめとする10余りの都市との友好関係を持ち、毎年観光のシーズンには、チャーター機による相互訪問を続けてきた。

南方航空湖北支社は1990年代中期に武漢 福岡、武漢 ソウル、武漢 バンコクなどの国際航空コースを次々と開通したことがあり、さらに2004年12月7日には武漢 広州 パリの国際往復航空コースも開通した。しかしながら開通間もなく様々な原因により運行停止となった。

去年、東方航空公司は武漢発上海経由福岡線を開通したが、上海を経由する必要があるため、直航便とは言いにくい。

このたびの武漢 東京の直航便の番号はCA113/4、毎週水、土に飛行する。3月の末に開通する予定だったが、3月中旬の大地震の影響で中止せざるをえなかった。以前の乗り換え航空コースに比べると、半分の時間が節約できる。今後日本観光コースも安く、便利になる見込みである。

## 武漢の都市建設ブームはこれから5年間続く

武漢の都市建設ブームはこれから5年間続き、市内各主要道路での時速30キロに達することを目指す。

2015年まで、武漢の大規模都市建設は引き続くだろう。その中でモノレールや地下鉄の建設計画投資額は750億元以上、市内の道路及び橋の建設計画投資額は1140億元を超える見込みである。

昨日、武漢市人民代表大会常務委員会の会議上、市都市建設委員会は、建設計画に基づき2015年までに市内の交通ネットワークでの自動運転時速は30キロに、第2環状線では車の走行時間を平均30分以内に、都市中心部から周辺地区への運転時間は60分以内を目指すと報告した。

## 武漢 東京 8/27就航

2011年8月27日より、武漢から国際航空会社CA113便に乗り、東京の成田空港に到着する。毎週2便飛ばし（往復合わせて4便）、曜日の水曜日、土曜日である。武漢を14:35分に出発し、19:15分に東京に到着する。東京を20:15分に出発し、23:20に武漢に到着する。

武漢 東京直航便は15日前に予約する個人客に優遇制度を出している。燃油サーチャージ、空港税を除き、片道の最低価格は1000元（13,000円、1元=13円 以下同様）、往復最低価格は1700元（22,100円）。この優遇価格の有効期間は1ヵ月である。国際運賃は客数、ニーズにより、変動があるが、往復の平均価格は3000元（39,000円）前後である。国際航空会社は東京一ヶ所の5日ツアーの観光商品を作成し、価格は約3500元（45,500円）である。

湖北省及び武漢市の観光部門は三国、武当、山峡と武漢の観光地を日本で宣伝し、直航便の客数を拡大する。市委員会常務委員、常務副市長の袁善臘氏は武漢 東京直航便の開通により、武漢対外開放のニーズを拡大し、旅行、外事弁、文化などの部門が三国コース、武当コース、山峡コースを作成し、マーケティング開拓を強化する。日本の観光客は直航便を利用し、湖北省、武漢を観光し、入国の祭は早く通関させ、日本は武漢で大使館をできるだけ早く設置し、当地でビザを申請することを実現すると話した。